



一 復活する郭、新しい橋詰広場 飯田橋駅西口

飯田橋駅の西口は、かつての牛込見附であつた牛込橋の先に見える城内を眺めると、お堀周辺広く空いた空間の向こうに高く黒々とした木造の築、堂塔たる「郭」の様相だったようである。そんなかつての緑の郭をここでつなぎ、見附への風格あるヴィスタを表現する。石垣・土塁・アートストップを設け、早稲田通り奥への期待感を高める工夫としている。また、牛込橋の袂に「広場を大きく設けることで、神楽坂と早稲田を結ぶ「楔」となり、人が集まる場となる。

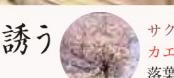


クスノキ
クロガネ
常緑高木

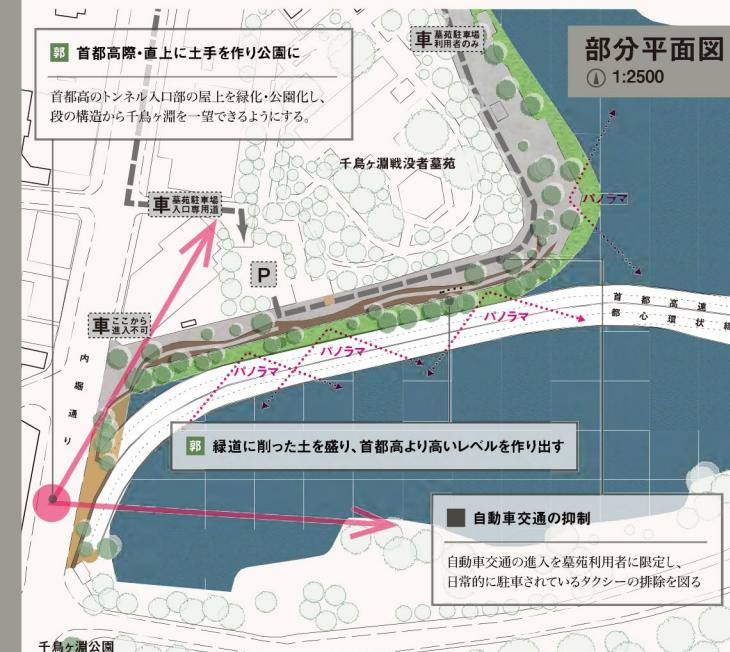


二 首都高で郭を際立たせ緑道へ 千鳥ヶ淵緑道西側入口

桜で名高い千鳥ヶ淵緑道だが、内堀通りとの交点では緑道の入口が目立たず、緑道に入る人は現状であまり多くない。今回提案では、千鳥ヶ淵の「郭」の角
際立たせることにより、千鳥ヶ淵緑道に回り込んで回遊する人を増やす。
具体的には、緑道の首都高際や首都高のトンネル
直上に1.5mほどの土盛りを施し、千鳥ヶ淵が一望
できるようにする。また緑道脇の大量のタクシー
駐車問題を解決するため、自動車交通を抑制する。
家族連れから皇居ランナー、サラリーマンまでが
楽しめる、千鳥ヶ淵の郭が再発見される。

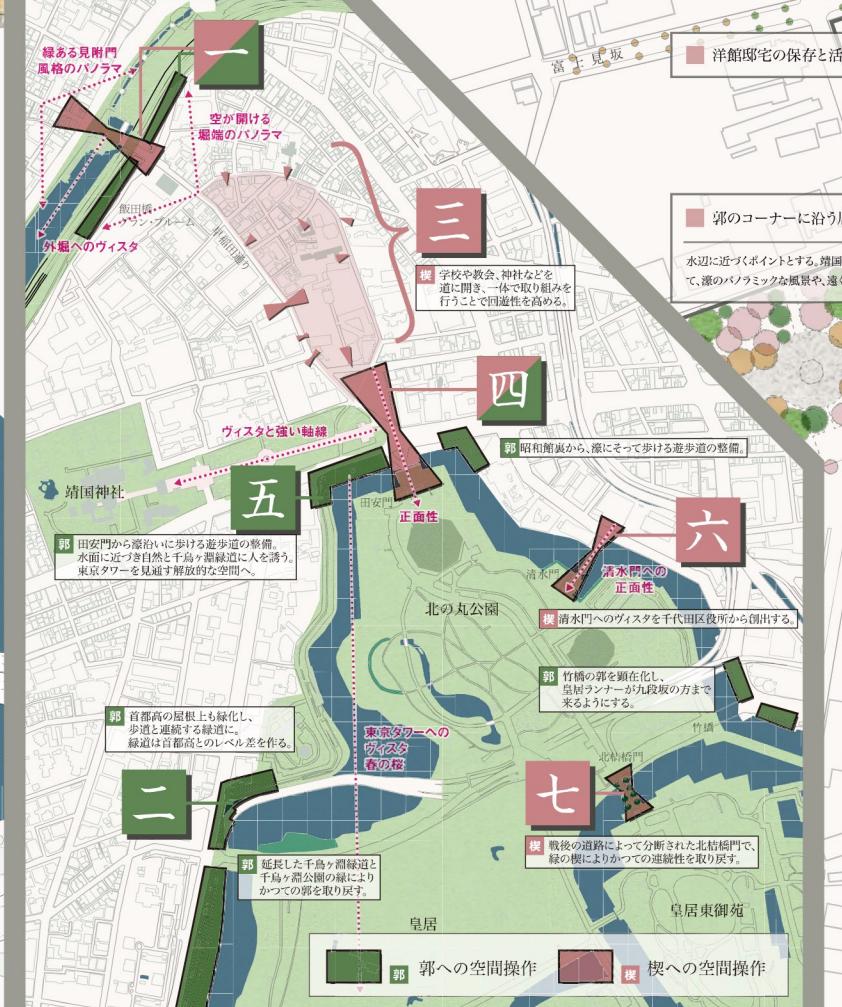


ーマンまでが



全体計画図

1:1000



詳細計画図
1:2500



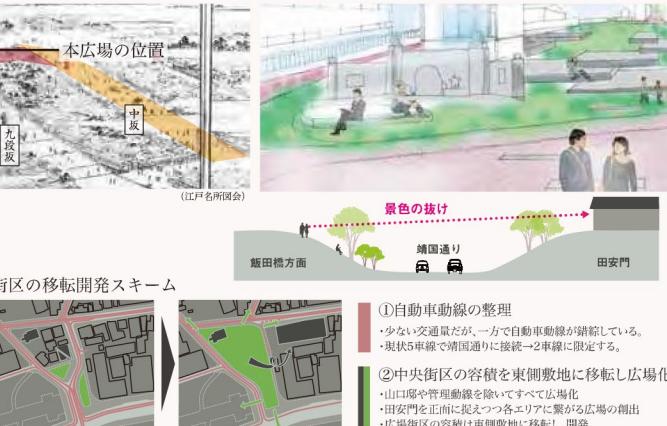
三

道路をまたいで「知」と「礼」がつながる 富士見みらい広場



四 田安門前、 ヴィスターの通る「九段広場」

毎日イベントが行われる武道館には毎日多くの人が訪れるが、靖国神社を底とした豊かな地形と視線を遮る木々が茂る既存小広場に阻まれて、田安門から飯田橋駅方面への人の流れは少ない。そこで、田安門正面に強い軸性を持った広場を構築する。舗装や樹木の配置によって田安門の軸線を強調し、その上が遠く見通せることで歩きやすくなる。全部で「九段」ある広場内の段々は、大きな高低差を上りやすくすると共に、腰かけて滞在することができる。早稲田通りと北の丸公園をつなぐ、大きな賑わいの橋となる。



五 田安門前から内濠に寄り添う
千鳥ヶ淵緑道入口

新たに魅力的な観点場を設けることで、人通りの多い靖国通りから緑道入口へと人々を誘う。田安門前では高燈籠を活かした小広場から水際の遊歩道へと人を導き、遊歩道の中には、内堀の風格あるヴィスタを臨む観点場を設け、来訪者を楽しませながら緑道入口まで誘導する。緑道入口の角地の古いビル一階をリノベーションしカフェなど飲食店の様子が外へ染み出させる。また、入口から少し入った場所の元九段病院の建て替えに伴い、一部に皇居ランナーが利用するランピットや緑道側に休憩できるカフェ・飲食店を設け、緑道奥まで人の流れを生み出すきっかけとする。

